
ストーリーエンド

ピコット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストーリーエンド

【コード】

N0772Q

【作者名】

ピコット

【あらすじ】

一握りの神々の世界について、興味のある少年……

とある日、突然親友が『ミーティアになりたい!!』と言って来た

そして、その親友、実は可愛い悪魔にとりつかれていたのだ!!

少年の過去があまりにも残酷なことを知らない悪魔は少年に契約を求めて来て……

lie、or、reality? (前書き)

なあ……神って、信じるか？

俺は信じたくねえ

けど、俺の過去に、信じなくては理屈も理論も通用しないようなことが起きたんだ。

そこには、誰も分かり知れない暗い哀しみと絶望があっただ。

だから俺は神という、非現実的な存在を信じたくねえが、信じるぜ

そして、復讐してやるんだ

lie、or、reality?

昔々の遙か彼方…と言つ非現実的な世界（宇宙）に確かに『それらは存在した…』

その、ほんの一握りの白き世界（惑星）には大きく偉大な『神々』の一部だと奉られる者…『女神』が一握りの小さな世界を支配してきた。

視るものを立ち止まらせる美しき美貌。何でも見透すかのような青く深い瞳。滑らかで触れるだけで計算されたように揺らぐ汚れのない白い髪。

見るからに優しく穏やかそうな、彼女（女神）をこの目で見て彼女の願いを聞き入れない者（白き世の生存者）は恐らく居ないであろう…

彼女（女神）はその世界（惑星）に生存する生物に名前を与えた。

その中で選ばれし生物が『天使』

彼女の力（神々の一部）を使い『天使』はみるみる進化してきた。

知識、能力、体術、本能、等々

天使は彼女に計算されたかのように学習能力を身につけていった。

その度に天使は彼女を敬い彼女の力を欲した…『欲』という彼女の設定してないエラーの機能を天使はインプットした。

彼女は天使の『欲』が治まるまで力を与え。それでも果てない神々の力を欲し、そしてその神々に対しての恐れを討ちきろうとする様に…神々を越えようとするように『欲望』の感じるがままに天使達が動き出した…。

非現実的な世界の一部（惑星）は実に様々…

黒き一握りの世界「惑星」に「神々の一部」が生存していた『死神』と奉られ、その黒き小さな世界を支配していた。

彼の顔は目の部分だけ微かに空けられた白い面で隠し、髪の色は黒々しく烏を連想させ肩に少し髪がのるくらいの長さ。手は薄い丈夫そうな皮で作られた手隠しが…体は漆黒の現在で言う長いコートに包まれコートの首まわりには烏を一匹使って造られたような黒い羽が…彼女「女神」はその真逆の全てを白く黒が一点もない服装。その『神々』は皆、若く。見た目は現在の例えかたで二十歳くらい

彼「死神」は、黒き世界「惑星」を己の為に使おうとその世界の生存者を全て思うがままに操った。その世界の生存者「悪魔」は彼を妬み恨んだ死神の為だけの能力をインプットされどんな命令も絶対…そんな日々が続くにつれ『殺意』と言う死神がインプットしていないエラーの感情が黒き世界の生存者「悪魔」にインプットされた。『死神を殺す』

それが生存者「悪魔」の生きる意味だと悪魔達は死神を殺す。能力、技、等々を『殺意』というエラーの感情に身を任せどんどんインプットしていった。そして悪魔達は『神々』に近い力を手に入れた。

lie, or, reality? (後書き)

非現実的な存在とリアル過ぎる俺。

嘘のような話だけど、俺にとっては現実で……

否定したくても、そのリアルさに何も言えなくなってしまう

頼むから、俺の頭の中のノイズを止めてくれ……。

俺の外れたネジをつけてくれ……。

じゃないと、俺はその不快感に溺れてしまいそうになるからさ、

現実 or 嘘（前書き）

なあ……神って、信じるか？

俺は信じたくねえ

けど、俺の過去に、信じなくては理屈も理論も通用しないようなことが起きたんだ。

そこには、誰も分かり知れない暗い哀しみと絶望があっただ。

だから俺は神という、非現実的な存在を信じたくねえが、信じるぜ
そして、復讐してやるんだ

現実 or 嘘

二つの白黒の一握りの世界は何億光年と離れていてその巡間にある蒼き世界「地球」が存在した。

その蒼き世界の支配者は神々の中で一番強く恐れられる…『神』だ。彼「神」は、一言で言うと『黒白』大きな翼は女神と同じ白。死神は黒。大きな全身を被うコートは黒。髪の色は光合しくない銀色で肩の前に左右対称に胸くらいまで垂らしてある。顔は凜としていて青い瞳につり目が印象的。顔立ちは良く、左頬にホクロがある。そんな神々が存在する非現実的な世界…

白と黒は相性悪くお互いに敵視していたが『神』の存在が大きく乱戦までは至らない

その大きく偉大な存在「神」は蒼き世界の生存者「人間」に生きるための力を能えた。

仲間同士支えあい、悲しみ、苦しみ、喜び、憎しみ、怒り…

彼「神」は、己の為に人間を使うのではなく神の力を使わないで人間を独立させ、この『蒼き世界』を託してみようと考えた…。

人間は『天使』・『悪魔』と違って神々の力はさほど無い。

悪魔は現在で言う黒の神父服、天使は現在で言う白のシスター服…

と、皆、統一していたが人間は違って何もかもが自由だった…

好きな色で服装をコーディネートし、体型、ルックスも様々…。

天使、悪魔は神々の力を持って

ない『蒼き世界』の生存者に憧れた。

神は、皆、平等。

人間にあつて天使、悪魔に無いもの…それは『自由』。どんなに神々に近づいてもどんなに力を手に入れても…人間の持つ『自由』は手に入れられ無かった…。

白、黒、蒼。

白イコール天国
黒イコール地獄
蒼イコール地球

誰が考えたでもなくそう呼ばれるようになった一握りの小さな三つの世界。何億年と年月が経ち現在から一億年前…。

世界のバランスが崩れた

『ミーティア』：白、黒、蒼。全てに属しない者達が天国、地獄、地球に現れた。

〔死にサイン〕

この一握りの世界は非現実的な世界に相応しいか審査…死に來た者だった。

彼らは『ミーティア』と名乗り一握りの小さな世界を現れて数秒で審査した。『欲』に溢れた天国、『殺意』に溢れた地獄、『自由』と生存者が独立した地球…。

彼ら〔ミーティア〕のチョイスにより何億光年とも生きた一握りの小さな世界が二つ壊滅した…。

『蒼』

その存在は大きかった…、何にでも平等な『神』。その日女神と死神は滅んだ。人間の教程の天使、悪魔…ミーティアに抵抗した使者は彼らの手により始末された。

残された『神々の力を繋ぎ死者』は蒼き世界の神の平等を求めその中で選ばれし生物が『天使』

彼女の力〔神々の一部〕を使い『天使』はみるみる進化してきた。知識、能力、体術、本能、等々

天使は彼女に計算されたかのように学習能力を身につけていった。その度に天使は彼女を敬い彼女の力を欲した…『欲』という彼女の

設定していないエラーの機能を天使はインプットした。

彼女は天使の『欲』が治まるまで力を与え。それでも果てない神々の力を欲し、そしてその神々に対しての恐れを討ちきろうとする様に…神々を越えようとするように『欲望』の感じるがままに天使達が動き出した…。

非現実的な世界の一部「惑星」は実に様々…

黒き一握りの世界「惑星」に「神々の一部」が生存していた『死神』と奉られ、その黒き小さな世界を支配していた。

彼の顔は目の部分だけ微かに空けられた白い面で隠し、髪の色は黒々しく烏を連想させ肩に少し髪がのるくらい長さ。手は薄い丈夫そうな皮で作られた手隠しが…体は漆黒の現在で言う長いコートに包まれコートの首まわりには烏を一匹使って造られたような黒い羽が…彼女「女神」はその真逆の全てを白く黒が一点もない服装。その『神々』は皆、若く。見た目は現在の例えかたで二十歳くらい

彼「死神」は、黒き世界「惑星」を己の為に使おうとその世界の生存者を全て思うがままに操った。その世界の生存者「悪魔」は彼を妬み恨んだ死神の為だけの能力をインプットされどんな命令も絶対…そんな日々が続くにつれ『殺意』と言う死神がインプットしていないエラーの感情が黒き世界の生存者「悪魔」にインプットされた。『死神を殺す』

それが生存者「悪魔」の生きる意味だと悪魔達は死神を殺す。能力、技、等々を『殺意』というエラーの感情に身を任せどんどんインプットしていった。そして悪魔達は『神々』に近い力を手に入れた。

現実 or 嘘（後書き）

非現実的な存在とリアル過ぎる俺。

嘘のような話だけど、俺にとっては現実で……

否定したくても、そのリアルさに何も言えなくなってしまう

頼むから、俺の頭の中のノイズを止めてくれ……。

俺の外れたネジをつけてくれ……。

じゃないと、俺はその不快感に溺れてしまいそうになるからさ、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0772q/>

ストーリーエンド

2011年1月16日02時58分発行